

2020年 4月15日

【本件リリース先】
九州大学関係報道機関

国立大学法人九州大学
株式会社サムライト

九州大学と㈱サムライト、「行動変容・レジリエンスをうながすチャット型コミュニケーションの研究」研究結果を発表

国立大学法人九州大学応用生理人類学研究センターレジリエンスデザイン部門（尾方義人准教授、所在地:福岡市南区）と株式会社サムライト（代表取締役:光岡 眞里、所在地:福岡県福岡市、以下 サムライト）は、「行動変容・レジリエンスをうながすチャット型コミュニケーションの研究」を2018年6月～2019年9月にわたり会話分析・行為分析を中心に実証実験を行い、この度共同研究結果を報告しました。

1. 背景

日本は団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に高齢者問題に対応することが喫緊の課題であり、認知機能低下やフレイル（虚弱）をどのように予防するかが大きな問題となります。しかし、2025年以降は70歳以上の7割はスマートフォンを持つ可能性が高く、LINE等のSNSを利用する高齢者は今後増える可能性は高いと考えられます。

2. 実証実験の概要

「前より元気になった気がする」を客観的に理解し、方法として再現するためにウェブ上のコミュニケーションでの会話分析・行為分析を中心に質問紙調査などを行ないました。実験結果として、曖昧な言葉より指示語を使わない具体的な文章のほうが、ページビュー数の増加に影響を与えることや、レジリエンス度と協調性には負の相関が示唆されるなど、利用者における効果があることが得られました。

3. 今後の展開

この研究結果を受け、株式会社サムライトでは今後、人生100年時代を明るく元気に過ごし、社会に役立つ『場』を創るため、オンライン『通いの場』～トシノトリカタサロン～を開設し、オンラインでユーザーとの直接的なやりとりをするサポートセンターをサムライト内に開設する予定です。

新型コロナウイルス感染拡大で外出機会を無くしたシニアの方々に、役に立つコンテンツとして一層のファンづくりに努めます。

4. 商標について

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

5. 問い合わせ先

サムライト サポート事務局

TEL : 092-852-5252 E-mail : info@somelight.co.jp

発信枚数：A4版 1枚（本票を含む）

以上